7. 音 楽 科 論 文

夢や目標をもち，共にみがき高め合う子どもの育成Ⅱ

音楽との豊かなかかわりを求め続ける子どもの育成
～音楽のよさや面白さ，美しさを実感する音楽科カリキュラムの創造～

Ⅰ　研究の目的 ……………………………………………… 85
　1　研究の背景 ……………………………………………… 85
　2　研究の方向 ……………………………………………… 85
Ⅱ　研究内容 ……………………………………………… 86
　1　音楽との豊かなかかわりを求め続ける子どもとは ……………… 86
　2　音楽のよさや面白さ，美しさを実感する音楽科カリキュラムの基本的な考え方 ……… 87
　3　音楽のよさや面白さ，美しさを実感する音楽科カリキュラムの全体構想 ……… 88
　（1）各教科・領域等や諸活動との関連を図ったカリキュラムの見直し ……… 88
　（2）生活・社会とのかかわりを意識した学習内容の設定（我が国や郷土の音楽） ……… 89
　（3）音楽に対する考えを明確にする言語活動の充実 ……… 89
　4　音楽のよさや面白さ，美しさを実感する音楽科カリキュラムの具体化 ……… 90
Ⅲ　研究の実際 ……………………………………………… 92
　1　実践の立場 ……………………………………………… 92
　2　第4学年年間指導計画 ……………………………………… 92
　3　第4学年題材「きょう土の音楽を味わおう」における実践 ……… 93
　4　実践結果と考察 ……………………………………………… 95
Ⅳ　研究の成果と課題 ……………………………………………… 96
　1　研究の成果 ……………………………………………… 96
　2　研究の課題 ……………………………………………… 96

【学校教育目標】

夢や目標をもち，共にみがき高め合う子どもの育成　【校訓】まことの子・ちからの子・のぞみの子

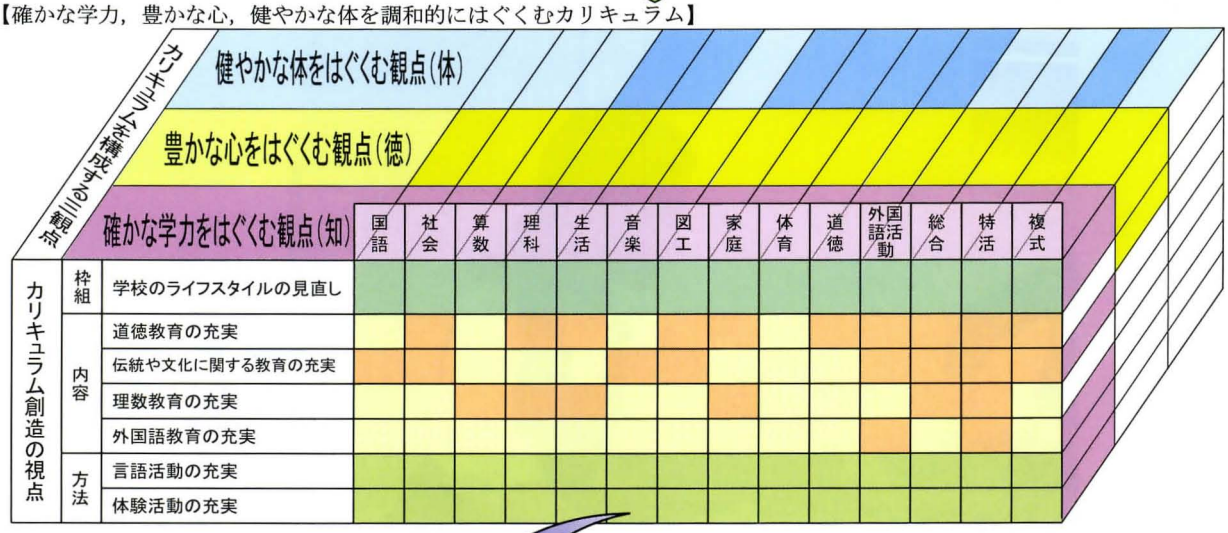
【目指す子ども像】

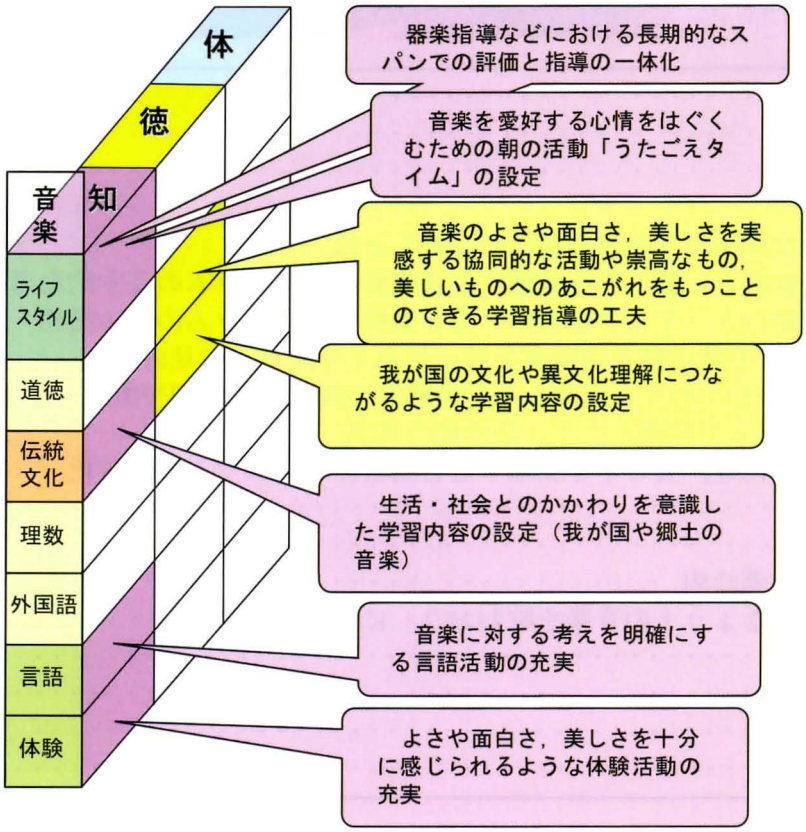
（知）互いの考えに学び合う子ども	（徳）心と心がひびき合う子ども	（体）心と体をきたえ合う子ども

【本校の主な教育課題】

確かな学力の面から	豊かな心の面から	健やかな体の面から
○論理的な思考　○伝え合う方法の習得 ○学ぶ喜びや楽しさの実感	○人間関係（他者意識）　○自己の発揮の仕方 ○多様な体験	○基礎体力　○生活習慣　○健康・安全

【確かな学力，豊かな心，健やかな体を調和的にはぐくむカリキュラム】





Ⅰ　研究の目的

1　研究の背景

社会的な背景や時代の要請から，音楽のよさを感じ取り，思いや意図をもって表現したり音楽全体を味わって鑑賞したりする力の育成や，音楽文化のよさを味わったり，生活や社会に生かしたりする態度の育成を図り，豊かな情操を養うことを目指し，今回の音楽科学習指導要領は改訂された。

また，これまでに本校音楽科では，音楽へのあこがれをもち，こだわって取り組む子どもを目指し，研究を進めてきた。その中で，自ら学ぶ意欲を高める子どもの姿を探るとともに，このような姿が見られるようにするための学習内容や指導の方法の見直しを行った。この研究の成果として，イメージと音楽を形づくっている要素とを関連付け，思考・判断しながら表現したり，音楽を形づくっている要素を基にして鑑賞したりする子どもの姿が見られるようになった。さらに，昨年度は，学習指導要領に新設された〔共通事項〕を核とした題材設定の在り方について方向性を示すことができた。また，我が国の伝統文化や異文化理解につながるような学習指導を提示することもできた。

しかし，一方で，学習経験が授業の中だけで終わってしまい，中には，「音楽は生活には特に必要のないものだ」という考えをもつ子どもも少なからずいることから，音楽と生活・社会とのかかわりに関心がもてず，生活・社会に生かそうとする姿が十分に見られないという課題もある。

そこで，これらの成果と課題を踏まえ，学習指導を改善するとともに，音楽科カリキュラム全体を見直す必要がある。

2　研究の方向

現代は，多種多様な音楽が生活・社会の中に存在する。それは，音楽が身近なものになり，生活・社会を豊かにしていると考えることができる。しかし，様々な種類の音楽が溢れているとも考えられるこの状況では，聴き手の意思とは無関係に受動的に音楽が入り込んでしまうこともあると考えることができる。このような中においても，子どもが，自らの意思や価値観をもって音楽と主体的にかかわっていくようにすることは，子どもの豊かな心をはぐくむ上で必要なものであると考える。つまり，子どもが，音楽のよさや面白さ，美しさを十分に感じ取りそれらを生かして表現・鑑賞できることが大切である。また，音楽と生活や社会とのかかわりに関心をもち，音楽経験を基にして，生活を豊かにしようとすることでもある。このことは，本校音楽科の抱えている研究課題や音楽科教育の目指すところと同じ方向性であるととらえることができる。そこで，授業における学習指導を充実させるとともに，教育活動全体において音楽と生活・社会との関連性を意識した指導を行い，音楽のよさや面白さ，美しさを十分に感じ取ることに重点を置いたカリキュラム創造を進めていく。

このように，音楽のよさや面白さ，美しさを十分に感じ取り，音楽と主体的にかかわっていこうとする子どもの育成に迫るため，以下のように研究主題と副題を設定し，研究を進めていくことにした。

音楽との豊かなかかわりを求め続ける子どもの育成
～音楽のよさや面白さ，美しさを実感する音楽科カリキュラムの創造～

Ⅱ　研究内容

1　音楽との豊かなかかわりを求め続ける子どもとは

子どもは，音楽を知覚すると，「この音楽はすてきだな」とか「だれが歌っているのだろう」などの感情を抱く。そこから，「歌詞がいいな」，「はずんだリズムが今の気分にぴったりだな」，「○○の時に演奏したら喜んでくれそうだな」といった思いも膨らむ。さらに，「歌えるようになりたいな」とか「家でＣＤを聴いてみたい」，「○○の時に演奏してみよう」などといった意思が生まれる。そして，表現したり鑑賞したりすることを通して，音楽を生活・社会とかかわらせていくと考える。

このように，様々な音楽に対して，自らの意思や価値観をもって音楽とかかわることを「音楽との豊かなかかわり」ととらえた。さらに，音楽が自分の生活・社会を豊かにするものとして，多様な経験を得ようとしたり，得た経験を生かしたりし続ける子どもを「音楽との豊かなかかわりを求め続ける子ども」ととらえた。

このような子どもには，様々な音楽に関心をもち，進んで味わおうとする意欲や態度が必要である。なぜなら，音楽への関心や意欲が無かったり低かったりすると，その音楽をただ聞き流してしまうだけで，その後の音楽との豊かなかかわりは生まれないからである。また，音楽を形づくっている要素を基にして，イメージを膨らませたり生活・社会に生かしたりする力が必要である。なぜなら，教師からの一方的な指示では，成就感や達成感を味わうことができず，生かしていこうとする意欲もわかないからである。さらに，音楽を感受するための感覚や知識，表現するための技能も必要である。なぜなら，音楽に対する価値観を構築していくには，音楽を形づくっている要素への着目が不可欠であり，技能は音楽を表現するためには，支えとなるものだからである。

つまり，「音楽との豊かなかかわりを求め続ける子ども」とは，次のような三つの培いたい力をバランスよく身に付けた子どもであると考える。

音楽の関心・意欲・態度

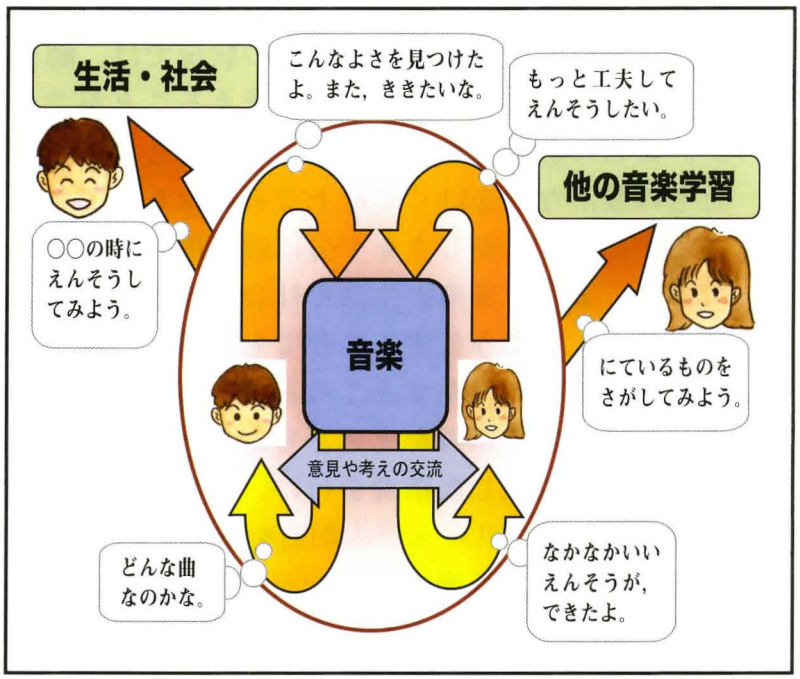
多様な音楽を進んで味わい，生活を豊かにするものとして様々な活動において音楽経験を生かしていこうとする子ども

音楽のつくりかたを学ぶ力

音楽を形づくっている要素に着目してイメージを膨らませたり，音楽を生活・社会に生かしたりすることができる子ども

感覚・技能・知識

音楽を形づくっている要素によって曲想が醸し出されていることを理解し，自分なりの思いや意図を表現したりすることができる子ども



【図１　音楽との豊かなかかわりを求め続ける子ども】

2　音楽のよさや面白さ，美しさを実感する音楽科カリキュラムの基本的な考え方

音楽との豊かなかかわりを求め続ける子どもを育成するためには，前項で述べた三つの培いたい力をバランスよく育成することが大切である。そして，このような資質・能力が，様々な経験を通して高まったり深まったりしていくためには，音楽科の学習や他教科・領域等，諸活動等の学習経験を通して音楽のよさや面白さ，美しさについて再認識したり新たに発見したりすることが大切であると考えた。

つまり，このように音楽のよさや面白さ，美しさを実感することが，音楽との豊かなかかわりを求め続けるための原動力になると考えた。

そこで，音楽のよさや面白さ，美しさを実感する音楽科カリキュラムを創造していくために，本校の実態やこれまでの研究の成果と課題，学習指導要領の改訂を踏まえ，カリキュラム創造の視点を次のように設定した。

視点１　他教科・領域等や諸活動との関連を図ったカリキュラムの見直し

子どもは様々な体験を通して，音楽への感じ方をより深め，表現を豊かなものにしていくことができると考える。そこで，他教科・領域等の内容と関連付けることにより，音楽の情景や気持ちをより豊かに感じ取ることができるようにしたり，朝の活動や諸活動と関連付けることにより，音楽表現を工夫してより広がりのある表現活動を楽しむことができるようにしたりする。そのためには，年間指導計画と他教科・領域等や諸活動との関連を明確にし，題材設定や配列を見直す必要がある。

視点２　生活・社会とのかかわりを意識した学習内容の設定（我が国や郷土の音楽）

目指す子ども像に迫るためには，音楽と生活・社会とのかかわりを子どもが実感することが大切である。それは，かかわりを実感することで，生活の中に音楽を取り入れたり，多様な音楽に対して自分の価値観をもったりすることができると考えたからである。

我が国や郷土の音楽は，古来より仕事や遊びといった生活の中から生まれたものが多く，生活・社会とのかかわりを実感するのに適していると考える。しかし，子どもたちは，「よく分からない」とか「古い」といった印象を抱いてしまい，よさや面白さ，美しさを実感するまでに至らない場合もある。そこで，我が国や郷土の音楽のよさや面白さ，美しさを実感できる学習内容を設定する。

視点３　音楽に対する考えを明確にする言語活動の充実

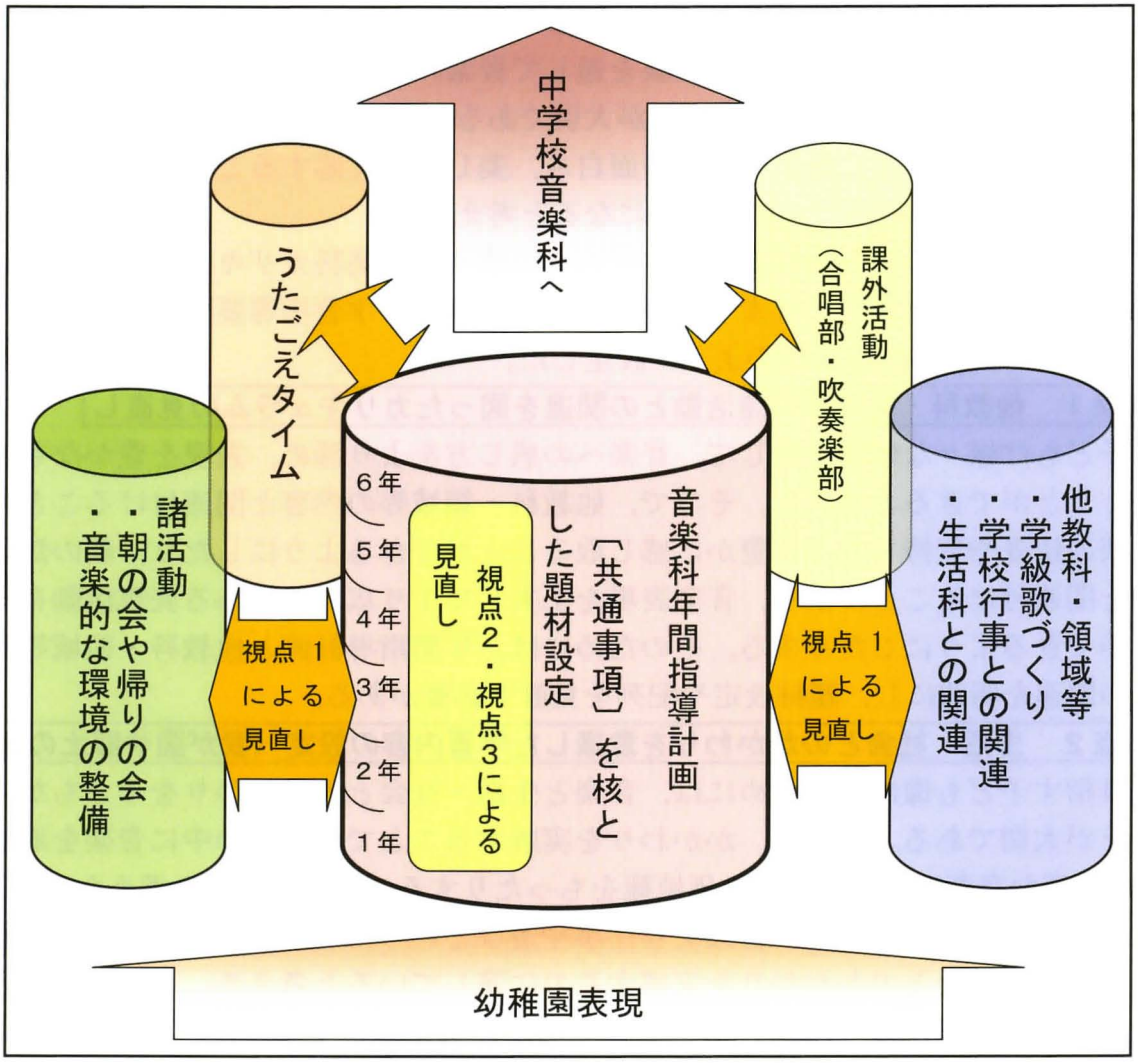
音楽の学習は，自分の感じ方や考え方を音や音楽で表現することが中心となる。また，合唱や合奏，グループでの音楽づくりなど集団で行う活動では，音や音楽を通して友達と伝え合い，共感する喜びを味わうことができる。

また，これらの音楽体験を通して感じ取ったことや学んだことを言葉で表すことによって，音楽に対する自分の思いや考えをより明確にしたり，整理したりすることができる。さらに，言葉で伝え合うことを通して，自分にはない友達の感じ方や考え方のよさに気付いたり，新たな思いを広げたりして，自分だけの思いを他者と共有できる思いに変えていくことにつながる。

そこで，音楽に関わる言葉を学年の発達や学習状況に応じて示し，子どもが自分から必要に応じて使えるようにする環境の充実を図るとともに，それらの言葉を使いながら話し合う場を設定する等，指導方法を見直す。

3　音楽のよさや面白さ，美しさを実感する音楽科カリキュラムの全体構想

前項で設定した音楽科カリキュラム創造の視点を基にして，音楽のよさや面白さ，美しさを実感する音楽科カリキュラムを図２のように構想していく。



【図２　音楽のよさや面白さ，美しさを実感する音楽科カリキュラムの全体構想図】

(1)　各教科・領域等や諸活動との関連を図ったカリキュラムの見直し（視点１）

年間指導計画の見直しに当たり，題材設定とその配列において他教科・領域等や諸活動との関連を図っていくこととするが，これまでの成果と課題として主に次のようなことが挙げられる。

＜成果＞　〔共通事項〕を核とした題材設定の在り方を示すことができた。
＜課題＞　授業内においてどのような内容をどの場面と関連させていくかが具体的に設定されていない。

これらの成果と課題を受け，学習指導要領の改訂も踏まえた見直しを行っていく。そこで，第１学年の４月期における題材の設定や第１・２学年における生活科との関連，新しく指導要領で示されている中学年の和楽器に関する内容の設定を行う。また，題材設定の在り方について昨年度研究した題材を学年内で時期的特性や系統性，既習経験による順序性を考慮し配列していく。

また，授業外においても，子どもが様々な音楽にかかわりをもち，音や音楽のよさや面白さ，美しさにふれ，音楽を愛好する心情をはぐくむことや協同する喜びを味わうことをねらいとして，朝の活動「うたごえタイム」を設定する。そこでは，全校児童が一堂に会することで，低学年の児童が高学年の児童の歌を聴き，目標としたり下学年に向けての活動から認められる喜びを味わったりする学び合いの姿も見られるような内容の設定をしていく。

【写真１　全校児童での朝の活動】

(2)　生活・社会とのかかわりを意識した学習内容の設定（我が国や郷土の音楽）（視点２）

生活・社会とのかかわりや学習指導要領改訂の趣旨を踏まえて，我が国や郷土の音楽に重点を置いた指導を進めていく。なお，前項でも述べたとおり，これまでに次のような成果と課題が見られている。

＜成果＞　音楽を形づくっている要素を意識して，音楽の特徴や仕組みをとらえることができ，意欲的に表現の工夫をする姿が多く見られる。
＜課題＞　その音楽についてよさや面白さ，美しさを十分に感じ取るまでに至らず，関心・意欲を高められないため生活場面との関連が薄い場合がある。

これらを受け，次のような考えの基，学習内容の見直しを図ることとした。

和楽器にふれる等の体験活動を充実させ，楽器演奏への興味・関心を高めることができるようにするとともに，教材曲のよさや面白さ，美しさを十分に感じ取らせることができるようにする。また，我が国の音楽や郷土の音楽についても鑑賞の活動と表現の活動を一体的に扱うことができるような題材設定を行う。さらに，様々な地域にある教材曲との比較をすることで，その曲にまつわる情感についても実感することができるようにしていく。

【写真２　和楽器にふれる活動】

(3)　音楽に対する考えを明確にする言語活動の充実（視点３）

言語活動の充実について考えた場合，これまでの研究や実践から次のような成果と課題が挙げられる。

＜成果＞　掲示物や教師の助言や発問から音楽を形づくっている要素を基にして，表現の工夫をしたり鑑賞をするときの着眼点としたりしている姿が見られる。
＜課題＞　音楽活動の中での話合いが不十分な場合，表現の工夫に高まりが見られないことがある。

言語活動の充実に当たっては，感じたことや気付いたことをワークシートに書かせたり活動の中で話し合う場面を設定したりし，教師が意図的に音楽を形づくっている要素に関わる意見を取り上げていくことで，表現の工夫に高まりをもたせたり鑑賞の視点を明確にもたせたりする。また，音楽のよさや面白さ，美しさを感じ取るための思考の手助けとなるよう，学習状況や発達に応じて，音楽を形づくっている要素について，音楽室内外の掲示物を工夫していく。

4　音楽のよさや面白さ，美しさを実感する音楽科カリキュラムの具体化

音楽科カリキュラムの柱となる年間指導計画における題材の配列を前項の考えを踏まえて見直しを図った。

＜第４学年の例＞

○　視点１：他教科・領域等や諸活動との関連を図ったカリキュラムの見直し

特別活動（学校行事）との関連を図り教科の目標を達成するための教材として扱うと同時に，式の歌のもつよさや面白さ，美しさを実感できるよう題材「式の歌を歌おう」を設定した。また，全校児童が一堂に会して学習の相互発表・鑑賞の場や協同的な活動として，題材「音楽発表会をしよう」を設定した。

○　視点２：生活・社会とのかかわりを意識した学習内容の設定（我が国や郷土の音楽）

今回学習指導要領の改訂に伴い，和楽器を含めた我が国や郷土の音楽，諸外国に伝わる民謡など生活・社会とのかかわりを感じ取りやすい音楽の鑑賞教材を設定することが示されている。そこで，郷土に伝わる「鹿児島おはら節」を中心とした教材で構成した題材を設定した。

○　視点３：音楽に対する考えを明確にする言語活動の充実

重点化した〔共通事項〕を基に題材を設定した。なお，授業において他の音楽を形づくっている要素についても随時取り扱う。

【表１　第４学年年間題材一覧】

時期	題材名	重点化する〔共通事項〕
前期	歌声合わせて	響きのある歌声，日本の音階 反復
	リズムにのって	リズムを生かした演奏の工夫 リズムフレーズの反復
	ふしの感じを生かして	なめらかな感じやはずむ感じを生かした演奏の工夫 反復，問いと答え，変化
	音の重なりを感じ取って	リズムが同じまたは異なる重なり方を生かした演奏 反復，重なりによる曲想の変化
後期	きょう土の音楽を味わおう	民謡の音階や和楽器の音色を生かした音楽づくり，イメージと要素とを結び付けた音楽づくり 反復，問いと答え，変化
	曲の気分を感じ取って	曲想に応じた速度や強弱の工夫 変化
	きき合って合わせよう	互いの音色を聴き合った演奏 反復，変化
	音楽発表会をしよう	曲に応じて設定
	式の歌を歌おう	曲想やフレーズを生かした演奏，音色・強弱

言語活動を充実させるために重点化した〔共通事項〕を明確にした。（視点３）

鹿児島おはら節を含む教材の設定をした。なお，表現と鑑賞の一体化を図ることで，音楽のよさや面白さ，美しさを実感することができるようにした。（視点２）

学校行事との関連を図った題材の設定を行った。なお，時期的な特性を踏まえ，教科目標達成のための教材曲を位置づけた。また，教材曲に応じて重点化する〔共通事項〕を設定した。（視点１）

＜第２学年の例＞

○　視点１：他教科・領域等や諸活動との関連を図ったカリキュラムの見直し

音楽科と生活科の関連を図った例として，第２学年の題材「うたってあそんで」において，取り扱う教材「わらべうた」を取り上げた。ここでは，音楽のよさや面白さ，美しさを生かし，幼稚園児との交流を図ったり，遊び歌として友達と遊んだりする活動の充実感から，よさや面白さ，美しさを実感することができるようにした。

【写真３　わらべうたでの手合わせ】

第２学年題材：うたってあそんで　教材：「わらべうた」

＜音楽の授業＞

旋律に使用される音が少なく，歌いやすい音で構成され，跳躍的な進行が少ないということから覚えやすく歌いやすいよさを体験活動を通して身に付けられるようにする。

わらべうたとの活動のかかわりを想起させる話し合い活動でその場面を焦点化させる。

＜生活科＞

幼稚園児との交流において，覚えやすいよさを生かして交流に生かすことができる。

＜生活の中での活動＞

すぐに取り組めるよさを生かして係の子どもが朝の会や帰りの会で取り上げ，楽しく活動する。

【図３　第２学年「うたってあそんで」における生活科との関連】

＜第１学年・第６学年の例＞

○　視点２：生活・社会とのかかわりを意識した学習内容の設定（我が国や郷土の音楽）

昨年度は，歌唱共通教材における学習内容の設定やその指導方法について研究した。これらのことを踏まえ，和楽器の使用による体験活動の充実を図ったり鑑賞と表現を一体化させたりしながら我が国や郷土の音楽のよさや面白さ，美しさを実感できるように題材を設定した。

【表２　第１学年，第６学年における題材の設定】

題材名	主な活動と我が国や郷土の音楽における指導の重点
第１学年 うたってあそんで	体を動かす活動を取り入れながら様々なわらべうたを歌い，授業の時間以外にも生かすことができるようにする。実際の活動を通して，覚えやすく親しみをもちやすい等のよさを実感することができるようにする。
第６学年 世界の音楽 味わおう	「越天楽今様」とその他の楽曲を比較鑑賞したり和楽器にふれたりする活動を通して，そのよさや面白さ，美しさを十分に感じ取ることができるようにする。

○　視点３：音楽に対する考えを明確にする言語活動の充実

音楽を形づくっている要素を意識して表現や鑑賞の活動ができるよう，音楽室内外の掲示や板書に使用する教具を工夫した。

【写真４　言語活動を充実させるための設営やカード】

Ⅲ　研究の実際

1　実践の立場

ここでは，カリキュラム創造の視点に基づき，本校の子どもも多数参加している地域の祭り「おはら祭り」で使われる「鹿児島おはら節」を教材とした題材を設定し，生活とのかかわりを意識した学習内容に見直すとともに，音楽に対する考えを明確にする言語活動を位置付けた授業実践を行う。

2　第４学年　年間指導計画

学期	月	題材	教材 ○歌唱・器楽 (共通教材は※) ☆音楽づくり ◎鑑賞	時数	共通事項 上：音楽を特徴付けている要素 下：音楽の仕組み	伝統・文化		他教科等・教育活動との関連
前期	4	歌声合わせて	○附属小学校校歌 ○学級歌 ○さくらさくら※ ○子どもの世界	0.5 0.5 2 1	響きのある歌声 日本の音階 反復	日本の音階の特徴や響きを感じ取る	今月の歌	・学級歌づくり ・うたごえタイム「校歌」
	5 6	リズムにのって	○いろんな木の実 ○おどれサンバ ◎ブラジル	3 2 1	リズムを生かした演奏の工夫 リズムフレーズの反復			
	7 8	ふしの感じを生かして	○まきばの朝※ ○とんび※ ○あたらしいえがお ○陽気な船長 ◎あいのあいさつ ◎ピチカートポルカ	1 2 2 4 0.5 0.5	なめらかな感じや弾む感じを生かした演奏の工夫 反復，問いと答え，変化			・うたごえタイム「われは海の子」
	9 10	音の重なりを感じ取って	○☆音のカーニバル ○パレードホッホー ○空に雲に ◎きゅう友	4 3 1 1	リズムが同じまたは異なる重なり方を生かした演奏 反復，重なりによる曲想の変化			
前期時数合計				29				
後期	10 11	きょう土の音楽を味わおう	◎鹿児島おはら節 ☆「これぞ鹿児島！」を音楽で表そう ◎花笠音頭／神田ばやし	1 4 1	民謡の音階や和楽器の音色を生かした音楽づくり イメージと要素とを結びつけた音楽づくり 反復，問いと答え，変化	郷土の音楽の特徴を感じ取り，音楽づくりに生かす。		・道徳における内容項目「郷土愛」とのかかわり
	12	曲の気分を感じ取って	○もみじ※ ○友だちシンドバッド ○オーラリー ◎つるぎのまい	2 1 3 1	曲想に応じた速度や強弱の工夫 変化	秋の自然の情景を思いうかべて歌う。	今月の歌	・集団宿泊学習
	1 2 3	きき合って合わせよう	○☆冬の歌 ○茶色の小びん ◎木管楽器の音楽 ○おどろう楽しいポーレチケ	4 5 1 2	互いの音色を聴き合った演奏 反復，変化			
		音楽発表会をしよう	○（学年発表曲） ○（音楽発表会）	2 2	※曲に応じて設定			・音楽発表会 ・うたごえタイム
		式の歌を歌おう	○あおげばとうとし ○君が代 ○ほたるの光	2	曲想やフレーズを生かした演奏 音色，強弱			・卒業式
後期時数合計				31				
年間時数合計				60				

3　第４学年題材「きょう土の音楽を味わおう」における実践

(1)　題材の目標

○　郷土の音楽に関心をもち，そのよさや面白さ，美しさを味わいながら，進んで活動に取り組むことができる。【関心・意欲・態度】
○　郷土の音楽の特徴を生かした演奏の仕方や音楽のつくり方を工夫することができる。【音楽のつくり方を学ぶ力】
○　郷土の音楽の特徴を感じ取り，リコーダーや楽器で演奏することができる。【感覚・技能・知識】

(2)「音楽のよさや面白さ，美しさ」を味わうための題材設定・学習内容の設定

これまで，第４学年においては，郷土の音楽を扱う題材は設定していなかった。しかし，学習指導要領改訂に伴う内容の改善を踏まえ，題材を新たに設定することにした。なお，題材設定の考え方については，昨年度研究の「共通事項を核とした題材設定」の考え方を基にしている。

ア　題材構成

【これまでの題材】
・　日本の音楽は第５学年からの扱い
・　中学年では題材なし

改訂を踏まえ，題材を設定

【新たに題材を設定】
・鹿児島おはら節（鑑賞）
・「これぞ鹿児島！」を音楽で表そう（音楽づくり）
・◎神田ばやし　◎花笠音頭（鑑賞）
【共通事項】民謡の音階，和楽器の音色，反復，問いと答え

また，これまで本校では，第５・６学年において，我が国や郷土の音楽を教材とした題材を設定し，実践してきた。そこから，以下のような成果と課題が明らかになっている。

○ 普段生活の中でふれることが少ないので，学習を通してふれることができる。
○ 和楽器（和太鼓や箏）に関心をもち，意欲的に取り組むことができる。
● 決められた音をつなげてふしをつくる活動では，関心や意欲があまり高まらない。
● 子どもの意識が授業の中で終わってしまい，生活につながらない。
● 音楽の特徴や仕組みは理解しても，よさや面白さ，美しさを十分感じているとは言えない。

さらに，学習前の事前調査から，以下のようなデータが得られた。(調査対象４年い組)

我が国や郷土の音楽について思っていること	人数		
古くてなじみがない	15	ゆっくりした曲が多い	7
日本の伝統だから大切	11	わかりにくいから難しそう	5
よく知らない	8	歴史や意味が分からない	4
興味がない，やりたくない	8	覚えやすい	2

以上の結果から，子どもたちは伝統的な音楽の大切さは理解しているものの，「古いもの」「なじみがない」等の理由で，あまりよい印象をもっていないこと分かる。そこで，本題材は，子どもの生活につながるとともに，子どもの創意工夫を生かせるような学習内容を設定することにした。**（視点２とのかかわり）**

イ　学習内容の設定

【これまでの我が国や郷土の音楽の題材での学習内容】
・　学習した音階を用いて，イメージに合うようなふしづくり（強弱やリズム，速さ，演奏の仕方の工夫）

【新たに設定した学習内容】
・　現在も地域に生きている祭りの音楽の鑑賞
・　「おはら節」の旋律やリズム，または和楽器を基に，「鹿児島」を表す音楽づくり
・　他地域の民謡の比較鑑賞

(3)　題材の指導計画（全５時間）

時	主な学習活動	教師の働きかけ
1	○　「鹿児島おはら節」の範唱を聴く。 「おはら節」には，どんなよさや特徴があるのだろうか。 ○　よさや特徴について話し合う。 ○　歌ったり楽器で演奏したりする。 ・　旋律　・リズム　・合いの手	○　11月に行われる県内最大の祭り「おはら祭り」の映像を流し，多くの人に親しまれていることや，踊っている人たちの表情が実感できるようにする。 ○　おはら節のよさや特徴を，「音色」，「リズム」，「音階」等の音楽を形づくっている要素を基に話し合う。
2 3 4	「これぞ鹿児島」を音楽で表そう。 ○　「おはら節」の旋律やリズムを基に，グループで鹿児島を表す音楽をつくる。 ・　桜島の噴火と灰が降る様子 ・　黒豚が走っている様子 ・　錦江湾にうかぶ船の様子 ○　つくった音楽を発表・鑑賞する。	○　前時の「おはら節」の学習を生かして，鹿児島を表す音楽を自分たちでつくることができるようにする。 ○　日本の音楽に興味をもたせるために，和楽器も使用できるようにする。 ○　おはら節の学習が生かせるようにするために，おはら節の旋律またはリズム，和楽器の音色などの要素を１つは入れるようにする。
5	各地に伝わる音楽にはどのようなよさや特徴があるのか気を付けてきこう。	○　さまざまな地域で歌い継がれているうたのよさに気付かせるために，鹿児島以外の地域の民謡を鑑賞する。

(4)　指導方法の工夫

【学習活動】
・　鑑賞活動で，音楽を形づくっている要素に着目して聴くことができるようにするとともに，なぜ今まで歌い（踊り）継がれているのかなど文化的側面にも着目させることで，よさや面白さ，美しさをより味わうことができるようにする。
・　実際に歌ったり，おはら節の要素を用いて音楽づくりをしたりして，音楽のよさや特徴を，実感を伴って味わうことができるようにする。
【学習の場・形態】
・　郷土の音楽への感じ方や技能のバランスを考慮したグループ編成を行う。
・　学習活動の中に話し合う場を設定し，教師が意図的に音楽を形づくっている要素にかかわる意見を意図的に取り上げたりする。**（視点３とのかかわり）**
【教師の具体的な働きかけ】
・　技能差に応じることができるような楽器を準備する。
【評価方法】
・　学習の振り返りの場面で，音楽に対する感じ方についての振り返りを行う。

(5)　実践の検証方法

教師側…　事前調査を基に，我が国や郷土の音楽への感じ方に応じてグループ編成し，活動観察を行う。

自己評価…　学習前と学習後に，音楽に対する感じ方や生活とのつながりについて振り返り，そう感じたわけを問うことで，音楽のよさや面白さ，美しさを実感することと三つの資質・能力とのかかわりをとらえる。

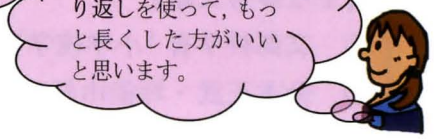
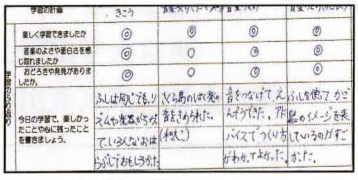
4　実践結果と考察

(1)　目標

ア　郷土をテーマにした音楽づくりに関心をもち，自分たちのイメージを基に，音楽づくりに進んで取り組むことができる。

イ　自分たちの設定したイメージと，音楽を形づくっている要素とを結び付けて，音の組合せや音楽の構成を工夫することができる。

(2)　授業の実際（４／５）

過程	主な学習活動	実際の授業の流れと教師の働きかけ ○…教師の働きかけ　…子どもの反応
課題把握	1　前時までの学習を振り返り，本時のめあてについて話し合う。 自分たちのテーマのイメージに合うように音楽をつくろう。 2　イメージに合うような音楽づくりで気を付けることについて確認する。 ・リズム　・音色　・速度 ・強弱　・旋律　・音の重なり ・問いと答え　・反復　・変化	○　本時のめあてを導くことができるようにするために，「これまで気を付けてきたことはどんなことかな」と問いかけるようにする。 ○　イメージを膨らませながら音楽づくりに取り組めるようにするために，設定したテーマのイメージに合うような写真や児童のイラスト等を準備する。
課題追求	3　自分たちの表したいイメージと音楽の要素とをどのように結び付ければよいか考えながら，音楽づくりをする。 (1)　グループごとにテーマとそのイメージを確かめ，音楽づくりを進める。 (2)　友達や教師のアドバイスを基に，さらにつくる。 4　次時の発表に向け，グループで取り組んでいくことを話し合う。	○　自分たちの音楽を注意深く聴きながら活動できるようにするために，グループ同士が近くなりすぎないように練習場所を振り分ける。 桜島が噴火する前は，音が高くなっていくふしにしよう。 爆発の瞬間は和太鼓の音色が合いそうだ。 **○　自分たちの音楽づくりに生かすことができるようにするために，活動が順調に進んでいるグループの作品を聴いたり，行き詰まっているグループの意見を取り上げてアドバイスしたりするような場を設けるようにする。（視点３）** 噴火の音はできたんだけど・・・ 噴火するまでを，くり返しを使って，もっと長くした方がいいと思います。 
まとめ	5　学習のまとめをし，自己評価をする。 	○　次時の活動に意欲をもつことができるようにするために，他のグループの音楽で参考になったことや自分たちの音楽で生かしていきたいことを話し合う。 ○　音楽のよさや面白さ，美しさを実感することができるようにするために，本時の学習を通して，音楽の感じ方の変化やその理由を振り返らせるようにする。

(3) 実践の考察

○ 我が国や郷土の音楽は，子どもたちが幼い頃から見たり聴いたりしていることから，学習への意欲が高まると同時に，リズムや旋律の把握や演奏技能の習得も早かった。また，学習後に「今までおはら祭りに行ったことはなかったが，おはら祭りに行ってみたい。」「祭りの由来を調べてみたい。」などの感想もあったことから，学習後に生活の中で伝統行事に参加しようとする意欲をもったり，文化についての知識を得ようとしたりするなど，継続して音楽にかかわっていこうとする姿が見られた。これらの姿は，いずれも音楽との豊かなかかわりを求め続ける姿であった。

○ 我が国や郷土の音楽の鑑賞活動で終わらず，表現活動（特に音楽づくり）との関連をもたせたことで，子どもの創意工夫が発揮され，我が国や郷土の音楽のよさや面白さ，美しさを再認識したり，新たに発見したりする子どもの姿が見られた。

○ 児童の発達の段階に応じて，我が国の郷土の音楽をどのように扱うか，どこまで扱うかを考えていく必要がある。

Ⅳ 研究の成果と課題

1 研究の成果

○ 年間指導計画と他教科・領域等，諸活動との関連を明らかにし，子どもが音楽とのかかわりを実感できるようなカリキュラムに見直すことができた。

○ 昨年度研究で明らかにした，〔共通事項〕を核とした題材設定の考え方を基に，音楽科年間指導計画を見直すことができた。

○ 音楽と生活のかかわりを重視する観点から，特に我が国や郷土の音楽について，よさや面白さ，美しさを味わえるような題材を設定し，学習内容の充実を図ることができた。その結果，学習後に「おはら祭りに参加してみたい」，「この前学習した音楽がテレビで流れていたよ」といった生活の中に音楽を生かそうとする姿が見られるようになった。

○ 音楽に対する考えを明確にする言語活動として，話し合う場を位置付けることで，子ども一人一人が音と真剣に向き合い，音楽のよさや面白さ，美しさを再認識したり，新たに発見したりする姿が見られるようになった。

2 研究の課題

○ 本年度見直したカリキュラムの妥当性を絶えず評価し，改善していく必要がある。

○ 「音楽との豊かなかかわりを求め続ける子ども」の姿がより表出するような具体的な学習指導の研究が必要である。

【主な参考文献】

○ 文部科学省「小学校学習指導要領解説　音楽編」（教育芸術社　平成20年）

○ 金本正武・坪能由紀子編著「小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり」（東洋館出版社　平成21年）

○ 佐藤日呂志・坪能由紀子編著「小学校教育課程講座　音楽」（ぎょうせい　平成21年）

○ 波多野誼余夫編「音楽と認知」（東京大学出版会 2007年）

○ 田中健次著「図解日本音楽史」（株式会社　東京堂出版 2008年）